

えがお川柳

手書きの手帳や日記が人気だそうだが、この時期にたびたお伝えているのは「句日記」。1日1句して1年で365句、立派な句集ができそうです。ところがわすれ1句を継続するのが難しい(笑)。負いわず、気が向いたときに詠むのも十分です。

新しい年「気まぐれ川柳を楽しんでみませんか」

自慢 または 自由 選者 新垣紀子

また自慢はなし逸らせて逃げ切った
自慢することなきこと自慢自慢
自慢手入はサツと簡単ハゲ自慢★
自慢話途中で妻が怒り出す
「天才だ 誰もが同じ孫自慢」
テレビより詳しい知識を自慢する
バスケ歴5年のおれは父をこえ
自慢家を許せる器それも自慢★
来世こそ自慢の出来連れ合ひを
釣りマア聞かば魚デカくなる
自慢して嫌われ者になるな度胸
ある物で豪華なディナー主婦の腕
あれやこれ忘れ自慢だケ・セラ・セラ
生きている誇りに思うそれだけで
富士山と江ノ島映えるゴキウ場★
それだけ走り続ける好奇心
おやじたちお国自慢はうまい酒
ちよと自慢大きい病氣なく生きてるぜ
泣いてと泣いてくれたと孫娘
孫自慢井戸端会議の主題となり
年として自慢のえくぼ皺になり★
ワンポイント肩から下げるブランド品
年を取り転び上手が自慢ハゲす
あいつで自慢話が止まらない
血糖値いつまで続くか酒自慢
カオケで自慢のどを披露する
前向きに生きているこそ我が自慢
自慢げに話す小5の奮闘記
この年風邪も引かぬは吾が自慢
妻小言聞か流すのがわが自慢
奨学金私優秀もたらつたよ
長寿国自慢はつたが複雑だ

↑自由
朝起きて消えていれどと思ふ傷★
頑固者皆明治で今我が身
泣く子供医者は腕の見せ所
近未来くまは貴重な食料か
チラ見れば証書じやねーし下着だし★
金婚で共に暮らした良しを知る
真青と赤黄緑で秋だなあ★

えがおお歌壇

石川啄木にこみ合へる電車の際に／ちぢまる／ゆふぶゆふの私のいとこと
現代に通じる通勤時の歌があり、また斎藤茂吉に「夜おそく電車のなかに兵ひ」とり
しつかに居るは何かまがびきと時代を感じさせる電車の歌がありました。鉄道が開通
してよりさまざまな歌に歌われ、現代の電車の歌が集まりました。

電車 または 自由 選者 山本 登志枝

優先席杖の魔法で譲られる有り難きかな人の温もり
急行が音を立てつつ通過するプラットフォームにたずみお
車中吊りの広告に消えた週刊誌 全員の視線は下のスマホに
登山車スイッチバックし登り行く車窓の紫陽花ときどき過ぎる
町と町繋ぐ鉄橋渡り行く電車の窓は夕日に満ちて
二面目の優先席と約束を友と交わして電車待ちいる
次の駅と通話遠慮のアナウンス静かな社内だれもきき
朝の陽を浴びながらの通勤電車乗る人々はいつもおんなじ
各駅にわずかに君にかがびきたりでも別れ夜が始まる
映りいる電車の窓の遠き山ありの日と変わらぬ雪の真白さ
亡き人と共に見た窓の外の景色 電車の音は遠き日の歌
懐かしき電車の吊り車に掴まりて亡き父の声ふよみがえる
乗り過ぎし戻る電車の車窓には見慣れぬ景色これもまたよし

自由歌
きみ逝きて心に生きる人となる私の笑顔ハンナ微笑む
秋明菊日本家屋の庭に咲き 家居の老女そとと見ており
鶴見川の川辺に赤いカンナの花ここにどうして咲いてのさう

七五三 または 自由 選者 大垣慶乃子

子の着付け宮司直せり七五三
ファミレスで今日はご馳走七五三
千歳輪下げて歩いた頃もあり
祖母よりの紋所継ぐ七五三
七五三羽織袴に未だ憶う
着付け師の季節のバイン七五三
七五三玉の鈴音まじり
帯解や祖母の手染めの四つ身着て
お下りの肩揚げ直す七五三
レンタルの衣装着めあ七五三
手をつなぐ羽織袴に父の影
七五三の羽織袴に父の影

舞風 シュレッター秘密飲み込む秋の暮れ
まきお 熱燗で鳥に残せぬ 柿数個
艶鏡 凶作で鳥に残せぬ 柿数個
参宅朗素 孫達に 写メを送る 柿熟し
茶太郎 時雨にも慕情やハマの中華街
泊里秋作 道祖神赤い帽子で冬に入る
根深汁五臓すみまで目覚めさせ
スパーマン 能登の瓦礫をひとまたぎ

えがおお歌壇

七五三の行事は多くの人が体験されている様で沢山の作品が寄せられました。良く聞く俳句や季節が重なる句等は残念ですが取れませんでした。次回からは冬帽子師走の街を様々な冬帽子が行き交う光景も良いですね。

七五三 または 自由 選者 大垣慶乃子

子の着付け宮司直せり七五三
ファミレスで今日はご馳走七五三
千歳輪下げて歩いた頃もあり
祖母よりの紋所継ぐ七五三
七五三羽織袴に未だ憶う
着付け師の季節のバイン七五三
七五三玉の鈴音まじり
帯解や祖母の手染めの四つ身着て
お下りの肩揚げ直す七五三
レンタルの衣装着めあ七五三
手をつなぐ羽織袴に父の影
七五三の羽織袴に父の影

舞風 シュレッター秘密飲み込む秋の暮れ
まきお 熱燗で鳥に残せぬ 柿数個
艶鏡 凶作で鳥に残せぬ 柿数個
参宅朗素 孫達に 写メを送る 柿熟し
茶太郎 時雨にも慕情やハマの中華街
泊里秋作 道祖神赤い帽子で冬に入る
根深汁五臓すみまで目覚めさせ
スパーマン 能登の瓦礫をひとまたぎ

えがおお歌壇

七五三の行事は多くの人が体験されている様で沢山の作品が寄せられました。良く聞く俳句や季節が重なる句等は残念ですが取れませんでした。次回からは冬帽子師走の街を様々な冬帽子が行き交う光景も良いですね。

七五三 または 自由 選者 大垣慶乃子

子の着付け宮司直せり七五三
ファミレスで今日はご馳走七五三
千歳輪下げて歩いた頃もあり
祖母よりの紋所継ぐ七五三
七五三羽織袴に未だ憶う
着付け師の季節のバイン七五三
七五三玉の鈴音まじり
帯解や祖母の手染めの四つ身着て
お下りの肩揚げ直す七五三
レンタルの衣装着めあ七五三
手をつなぐ羽織袴に父の影
七五三の羽織袴に父の影

舞風 シュレッター秘密飲み込む秋の暮れ
まきお 熱燗で鳥に残せぬ 柿数個
艶鏡 凶作で鳥に残せぬ 柿数個
参宅朗素 孫達に 写メを送る 柿熟し
茶太郎 時雨にも慕情やハマの中華街
泊里秋作 道祖神赤い帽子で冬に入る
根深汁五臓すみまで目覚めさせ
スパーマン 能登の瓦礫をひとまたぎ

えがおお歌壇

七五三の行事は多くの人が体験されている様で沢山の作品が寄せられました。良く聞く俳句や季節が重なる句等は残念ですが取れませんでした。次回からは冬帽子師走の街を様々な冬帽子が行き交う光景も良いですね。

七五三 または 自由 選者 大垣慶乃子

子の着付け宮司直せり七五三
ファミレスで今日はご馳走七五三
千歳輪下げて歩いた頃もあり
祖母よりの紋所継ぐ七五三
七五三羽織袴に未だ憶う
着付け師の季節のバイン七五三
七五三玉の鈴音まじり
帯解や祖母の手染めの四つ身着て
お下りの肩揚げ直す七五三
レンタルの衣装着めあ七五三
手をつなぐ羽織袴に父の影
七五三の羽織袴に父の影

舞風 シュレッター秘密飲み込む秋の暮れ
まきお 熱燗で鳥に残せぬ 柿数個
艶鏡 凶作で鳥に残せぬ 柿数個
参宅朗素 孫達に 写メを送る 柿熟し
茶太郎 時雨にも慕情やハマの中華街
泊里秋作 道祖神赤い帽子で冬に入る
根深汁五臓すみまで目覚めさせ
スパーマン 能登の瓦礫をひとまたぎ

えがおお歌壇

七五三の行事は多くの人が体験されている様で沢山の作品が寄せられました。良く聞く俳句や季節が重なる句等は残念ですが取れませんでした。次回からは冬帽子師走の街を様々な冬帽子が行き交う光景も良いですね。

七五三 または 自由 選者 大垣慶乃子

子の着付け宮司直せり七五三
ファミレスで今日はご馳走七五三
千歳輪下げて歩いた頃もあり
祖母よりの紋所継ぐ七五三
七五三羽織袴に未だ憶う
着付け師の季節のバイン七五三
七五三玉の鈴音まじり
帯解や祖母の手染めの四つ身着て
お下りの肩揚げ直す七五三
レンタルの衣装着めあ七五三
手をつなぐ羽織袴に父の影
七五三の羽織袴に父の影

舞風 シュレッター秘密飲み込む秋の暮れ
まきお 熱燗で鳥に残せぬ 柿数個
艶鏡 凶作で鳥に残せぬ 柿数個
参宅朗素 孫達に 写メを送る 柿熟し
茶太郎 時雨にも慕情やハマの中華街
泊里秋作 道祖神赤い帽子で冬に入る
根深汁五臓すみまで目覚めさせ
スパーマン 能登の瓦礫をひとまたぎ

えがおお歌壇

七五三の行事は多くの人が体験されている様で沢山の作品が寄せられました。良く聞く俳句や季節が重なる句等は残念ですが取れませんでした。次回からは冬帽子師走の街を様々な冬帽子が行き交う光景も良いですね。

七五三 または 自由 選者 大垣慶乃子

子の着付け宮司直せり七五三
ファミレスで今日はご馳走七五三
千歳輪下げて歩いた頃もあり
祖母よりの紋所継ぐ七五三
七五三羽織袴に未だ憶う
着付け師の季節のバイン七五三
七五三玉の鈴音まじり
帯解や祖母の手染めの四つ身着て
お下りの肩揚げ直す七五三
レンタルの衣装着めあ七五三
手をつなぐ羽織袴に父の影
七五三の羽織袴に父の影

舞風 シュレッター秘密飲み込む秋の暮れ
まきお 熱燗で鳥に残せぬ 柿数個
艶鏡 凶作で鳥に残せぬ 柿数個
参宅朗素 孫達に 写メを送る 柿熟し
茶太郎 時雨にも慕情やハマの中華街
泊里秋作 道祖神赤い帽子で冬に入る
根深汁五臓すみまで目覚めさせ
スパーマン 能登の瓦礫をひとまたぎ

えがおお歌壇

七五三の行事は多くの人が体験されている様で沢山の作品が寄せられました。良く聞く俳句や季節が重なる句等は残念ですが取れませんでした。次回からは冬帽子師走の街を様々な冬帽子が行き交う光景も良いですね。

七五三 または 自由 選者 大垣慶乃子

子の着付け宮司直せり七五三
ファミレスで今日はご馳走七五三
千歳輪下げて歩いた頃もあり
祖母よりの紋所継ぐ七五三
七五三羽織袴に未だ憶う
着付け師の季節のバイン七五三
七五三玉の鈴音まじり
帯解や祖母の手染めの四つ身着て
お下りの肩揚げ直す七五三
レンタルの衣装着めあ七五三
手をつなぐ羽織袴に父の影
七五三の羽織袴に父の影

舞風 シュレッター秘密飲み込む秋の暮れ
まきお 熱燗で鳥に残せぬ 柿数個
艶鏡 凶作で鳥に残せぬ 柿数個
参宅朗素 孫達に 写メを送る 柿熟し
茶太郎 時雨にも慕情やハマの中華街
泊里秋作 道祖神赤い帽子で冬に入る
根深汁五臓すみまで目覚めさせ
スパーマン 能登の瓦礫をひとまたぎ

港北えがおカフェ

認知症のかたもそうでないかたも気軽に集える場所

毎月8日10時から11時
大倉山スターバックスコーヒーの2階にて開催中
予約不要 どなたさまも気楽にお越し下さい。

港北えがおカフェ 問い合わせ えがお 本間 ☎ 090-8305-1006

たるちゃんカフェ

令和7年4月に樽町ケアプラザ主催の「たるちゃんカフェ」は「地域には気軽に参加できる認知症カフェがないよね」という町内会や介護事業者さんの声をきっかけに開設。

当初は「来てくれる方がいないだろうが、現在と不安でしたが、現在は毎回10名ほどが参加。60・80代の人が多く、認知症の当事者だけでなく、親の介護が気になる家族の参加も増えているそうです。

参加者の声は、「身近な認知症の方とどう接したらいいかわからなかったたので参加になりました。認知症の本人が楽しめた集まりに参加するきっかけになりました。出かける場所が欲しかった。2回目が参加ですが楽しみにしています。カフェでお菓子を食べるのが楽しくお話しになりました。

参加費200円でコーヒ・お茶 菓子付・偶数月はつなしま交流室で奇数月は樽町地域ケアプラザ。認知症の人や家族、地域にお住まいの方は自由なでも申込み不要で自由に参加をのびしま交流室5341220・樽町地域ケアプラザ53322501(編集部M)

しのはら人生一服亭

篠原地域ケアプラザが開業した。地域の会、おしゃべり、楽しまつてほしい。はら人生一服亭の会では、例えば終活のお話をいただいたことにもあります。

この日は地域のプラチナ世代、すきもこの週末に開催。毎週水曜日の午後1時30分から午後3時まで開催しています。

毎月メニューは地域ケアプラザとボランティアで検討して作っています。

代表の宮田さんは「ここにきて、これまでワクワクして来ましたが、もう一度来てもいいな」と思っています。ぜひ、みなさんで盛り上げていきましょう。

篠原地区だけに例えば妙蓮寺の駅で会ったときに、あなた！前回

えがおの介護相談所

季節の変わり目は体調を崩す方が多く、今年もたくさんのご依頼をいただいています。

ご依頼をいただいたらまず訪問して今の様子を伺いますが、初回の訪問で本

無理せず専門職に相談ですよ！

介護の悩みは、一人で抱え込まず、専門職に相談しましょう。地域ケアプラザでは、介護相談員が、お悩みを伺い、適切なアドバイスを行います。

えがおの介護相談所

介護の悩みは、一人で抱え込まず、専門職に相談しましょう。地域ケアプラザでは、介護相談員が、お悩みを伺い、適切なアドバイスを行います。

えがおの介護相談所

介護の悩みは、一人で抱え込まず、専門職に相談しましょう。地域ケアプラザでは、介護相談員が、お悩みを伺い、適切なアドバイスを行います。

えがおの介護相談所

介護の悩みは、一人で抱え込まず、専門職に相談しましょう。地域ケアプラザでは、介護相談員が、お悩みを伺い、適切なアドバイスを行います。

えがおの介護相談所

介護の悩みは、一人で抱え込まず、専門職に相談しましょう。地域ケアプラザでは、介護相談員が、お悩みを伺い、適切なアドバイスを行います。

えがおの介護相談所

介護の悩みは、一人で抱え込まず、専門職に相談しましょう。地域ケアプラザでは、介護相談員が、お悩みを伺い、適切なアドバイスを行います。

えがおの介護相談所

介護の悩みは、一人で抱え込まず、専門職に相談しましょう。地域ケアプラザでは、介護相談員が、お悩みを伺い、適切なアドバイスを行います。

えがおの介護相談所

介護の悩みは、一人で抱え込まず、専門職に相談しましょう。地域ケアプラザでは、介護相談員が、お悩みを伺い、適切なアドバイスを行います。

えがおの介護相談所

介護の悩みは、一人で抱え込まず、専門職に相談しましょう。地域ケアプラザでは、介護相談員が、お悩みを伺い、適切なアドバイスを行います。

えがおの介護相談所

介護の悩みは、一人で抱え込まず、専門職に相談しましょう。地域ケアプラザでは、介護相談員が、お悩みを伺い、適切なアドバイスを行います。

えがおの介護相談所

介護の悩みは、一人で抱え込まず、専門職に相談しましょう。地域ケアプラザでは、介護相談員が、お悩みを伺い、適切なアドバイスを行います。